

山田礦業所山田炭坑争闘  
一 概略

山田炭坑は於ては六月の中旬より下旬に亘り女坑夫の餓首を断行したるのであるが、抑々同坑は本籍<sup>本籍</sup>月<sup>月</sup>逆<sup>逆</sup>山として喧傳したる野上礦業所の経営にかりドスと棍棒によつて坑夫を非人間的なる條件の下に搾取に搾取を重ねたる所にして其殘虐なる待遇は多年炭坑を渡り歩いた炭坑太郎とも戦慄せしめる程である。そのドスに依つて維持し續けて来た劣悪なる條件は、日本礦業株會社<sup>株會社</sup>と成つた今日に於ても終許に改善されるが、其悪條件下に於ける女坑夫の解雇は、坑夫の徹底した最底生活をも困難せ末すか故に坑夫間に天動搖を来たしたのである。六月の平日同坑の木村君等が都事務所に來たり、最底生活擁護のために決然立ち上る指導を依頼したのである。

依つて直ちに組合員を派し内部と連絡をとり、極力坑夫の結束に努めると共に闘争準備を進めたのであったが、四月大津二坑の争闘が解決を告げたのを余力を注ぎ、六月日山田町中<sup>中</sup>に争闘本部を設け、<sup>争</sup>七日日本部を總動員した。<sup>争</sup>一坑夫の集會を終る中、山田炭坑に探知されたため、<sup>註</sup>諫者十五名にて争闘事務所に罷り、<sup>註</sup>今中別紙の歎願書を提出した。此事より附近の各炭坑は内情暴露を恐れて、周章狼狽し、<sup>註</sup>炭務係人探知屋頭を總動員して所を見張所を設けるなど宛然戦栗の如き警戒となす。而して争闘の正當過る正當を要求は一般市民の支持を受け、遂に炭坑も社会の批判を慮り事件の拡大を恐れて倉惶として調停を以て譲歩し、遂に左の如き條件の九十%の要求を貫徹して戦はす。諸君、團結の力と胆威の必要を一般坑夫に認識させ